私はこの本の中で紹介された女の子や男の子も籠の中の鳥だと思いました。女の子は役に立たない、稼ぎ手にならない、どんなんに強い素材で精巧な作りをした籠にあっただけで、賢い鳥は自分だけで籠を開けて飛び立てるような、自分の価値を信じて、学びたいと欲求を捨てない強さを持つ村の鳥です。
私と彼との強さが開けるきっかけやチャンスを引きよせていいるのだと私は思います。

何の未来を照らし続けるには何が必要うか、彼女の子たちは何を望もうか。

その答えを私は知っています。それは少しでも私たち彼女たちの思うところを知ろうと行動を起こすことを指し示す。

なぜなら、興味を持たない人間が彼女たちの事を懸念も興味も持たん。

興味を持たないうちに彼らの未来は光が見えない。

同じ考えをもつ国の人民が彼女たちに価値は無く付けろなら彼女たちの未来に自由はありませぬ。

たんなる時、違う考えを持った人が彼らの考えに割り込むと何か変化が起こるのではなしょか。
私たちは小さな動きを彼女たちにとっって、望みに繋がると言えても、私は信じています。

また女の子にも巻があるよう、男の子にも巻がありません。

女の子ほど酷で耐えられないとしても、私は信じています。

最後に私が一番強く感じたのは「他人を知る」ということだと大切だと思いました。

他人を知らないから、その人の立場かから見えて世界が分かります。他人を知ってこせると、自分の未来を変えることにもつながると思います。

私自身の巻を開ける様子に思ってたたんです。